



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2009年9月現在、川崎2、横浜5、県域11 計18名で活動中!!

～ '08 9/14

神通研集会報告⑩ 最終～

助言者のまとめ

「災害時に必要な手話単語」は災害が起こった時にぜひ活用してください。

災害時に備えて毎年積み重ねている各地域の取り組み報告がありました。ろう者にとってはもちろん、健聴者にとっても文字による情報の伝達は大切なことです。

「手話サークルでのより良いコミュニケーション」。サークルで起こる5つの問題について話し合いました。手話単語は学んでいても手話に関わる全てを学んでいないということが共通課題でした。

サークルで手話技術を学びたいという健聴者は多いですね。技術を学ぶだけでなく、ろう者と交流しながら理解するというのも必要です。たくさんのろう者とコミュニケーションが取れるようになって欲しいです。

健聴者同士の手話をつけないおしゃべりが多いことも気になります。ろう者は会話に入れません。

サークルの交流会への参加者が少ない。「交流会では自分の考えを手話で話さなければならぬから」と言われたことがあります。積極的にろう者と友達になるという気持ちをもって接して頂きたいと思います。

～ 定例会 '09/8/29 (土) ～

9月の集会についての最終確認を行いました。楽しめる分科会になるよう班員一同一致団結して臨みます。

全通研集会報告の中で障害者について、アメリカの人権としての捉え方と日本の福祉としての捉え方のお話がありました。現実の日本の状況は、どちらも中途半端のような気がします。

【次回定例会】

10/25 (日) 13:10～15:00
県民活動サポートセンター 707

～サークル研究班メンバーのささやき～

以前いたサークルでのこと。

ある年配の方が「サークルに来るのが楽しみなんだけど、手話がなかなか上達しないから来ると迷惑かしら?」とおっしゃいました。

そばにいたろう者に伝えたところ「通訳を養成する場所は別に作ってある。サークルには遠慮なく楽しみに来て欲しい」と。

この言葉が嬉しく、そしてサークルを手話技術が未熟な人が来にくい場所にはしてはいけないと強く感じました。

このあたたかな言葉を伝えてくれた方は、今頃空からみんなの楽しむ様子を見守ってくれていると思います。
～見上げてごらん 夜の星を～